

研究業績

へき地学童の耳鼻咽喉科検診成績 (第12報)

富山県農村医学研究会 豊田 文一
金沢大学医療技術短期大学部 津田 光世
北角 栄子

はじめに

昭和44年、へき地の学校保健対策の一環として、中新川郡上市町白萩地区を対象とし、小学校児童の耳鼻咽喉科検診を実施してきた。以来13年間、本誌にその成績を報告し、その推移につき報告した。昭和56年度も引き続き検診を行い、その成績を記述する。

検査成績

対象小学校は、白萩東部、白萩南部、白萩

西部、大岩、柿沢小学校をへき地、またはそれに近い農山村で、例年の如くこれをまとめ、対照として市街地にある上市中央小学校を選んだ。対象小学校は著しい過疎が進み、児童数も減少し、なかには廃校寸前のものもある。例えば、対象校では昭和45年児童数 391名であったものが、昭和56年には 292名となっている。

表1 白萩東部小学校

学年	鼻炎	アレルギー性鼻炎	慢性副鼻腔炎	中耳炎	扁桃炎	アデノイド	扁桃肥大	鼻たけ	咽頭炎	難聴の疑	その他	罹患者数	学童総数
1													
2													
3													
4													1
5													1
6													3
計												0	5
%													

表2 白萩南部小学校

学年	鼻炎	アレルギー性鼻炎	慢性副鼻腔炎	中耳炎	扁桃炎	アデノイド	扁桃肥大	鼻たけ	咽頭炎	難聴の疑	その他	罹患者数	学童総数
1													5
2													3
3	1									1		2	3
4		1					1					2	4
5	1											1	4
6													4
計	2	1					1			1		5	23
%	8.7	4.4					4.4			4.4		21.9	

表3 白萩西部小学校

学年	鼻炎	アレルギー性鼻炎	慢性副鼻腔炎	中耳炎	扁桃炎	アデノイド	扁桃肥大	鼻たけ	咽頭炎	難聴の疑	その他	罹患者数	学童総数
1	1						1			1		3	16
2	4				1							5	25
3													15
4													19
5						1						1	15
6													12
計	5				1	1	1			1		9	102
%	4.9				1.0	1.0	1.0			1.0		8.9	

表4 大岩小学校

学年	鼻炎	アレルギー性鼻炎	慢性副鼻腔炎	中耳炎	扁桃炎	アデノイド	扁桃肥大	鼻たけ	咽頭炎	難聴の疑	その他	罹患者数	学童総数
1	2											2	5
2	2					1		1				4	4
3								1				1	2
4	1					1						2	3
5												0	4
6								2				2	8
計	5					2		4				11	26
%	19.2					7.7		15.4				42.3	

表5 柿沢小学校

学年	鼻 炎	アレルギー 性鼻炎	慢性 副鼻腔 炎	中 耳 炎	扁桃 炎	ア デ ノ イ ド	扁桃 肥大	鼻 た け	咽 頭 炎	難 聴 の 疑 い	そ の 他	罹 患 者 数	学 童 総 数
1	2				2						1	4	21
2	4				1		2				1	8	24
3		1	1								1	3	17
4	1		1				4					6	28
5	1	1										2	22
6	1				1							2	24
計	9	2	2		4		6				3	26	136
%	6.6	1.5	1.5		2.9		4.4				2.2	19.1	

表6 上市中央小学校

学年	鼻 炎	アレルギー 性鼻炎	慢性 副鼻腔 炎	中 耳 炎	扁桃 炎	ア デ ノ イ ド	扁桃 肥大	鼻 た け	咽 頭 炎	難 聴 の 疑 い	そ の 他	罹 患 者 数	学 童 総 数
1	16		3		1		7				1	28	181
2	8		2		1		17				4	32	176
3	3	1	1		2		5			1		13	166
4	5	2	2		1		6			1	1	18	190
5	3		2		2		3				1	11	170
6	2		1				3				1	7	166
計	37	3	11		7		41			2	8	109	1,049
%	3.5	0.3	1.1		0.7		3.9			0.2	0.8	10.5	

表7 学校別、学年別学童数(調査対象)

学校名	学年							計	%
	1	2	3	4	5	6			
上市中央小学校	181	176	166	190	170	166	1,049	78.3	
柿沢小学校	21	24	17	28	22	24	136	10.2	
大岩小学校	5	4	2	3	4	8	26	1.9	
白萩東部小学校				1	1	3	5	0.3	
白萩南部小学校	5	3	3	4	4	4	23	1.7	
白萩西部小学校	16	25	15	19	15	12	102	7.6	
計	228	232	203	245	216	217	1,341		

表8 市街地、へき地別疾患別検査成績

	鼻 炎	アレルギー 性鼻炎	慢性 副鼻腔 炎	中 耳 炎	扁桃 炎	ア デ ノ イ ド	扁桃 肥大	鼻 た け	鼻 中 隔 弯 曲 症	咽 頭 炎	難 聴 の 疑 い	そ の 他	疾 患 の な い 学 童
上市中央小学校 N=1,049(%)	3.5	0.3	1.1		0.7		3.9				0.2	0.8	89.5
その他の小学校 N=292(%)	7.2	1.0	0.7		2.4		4.1				0.7	1.0	82.9

一応、各校別の成績を表示する。白萩東部小学校(表1)、白萩南部小学校(表2)、白萩西部小学校(表3)、大岩小学校(表4)、柿沢小学校(表5)の成績は表の通りである。調査した学校別、児童数は表7に示す。その疾患比率は、表8の如くであり、農山村地区と対照とした市街地の上市中央小学校と比較すると、前者においては、鼻炎、扁桃炎、難聴が高率であり、その他は大差ない。また表7に示す鼻汁分泌液中の好酸球の検索、すなわちアレルギーの指標として求めたものである

が、上市中央小学校児童に高率である。これは、鼻炎、副鼻腔炎のものの鼻分泌液で、この高率は、市街地とへき地農山村の環境の相違もうかがわれるのでないだろうかとも考えられる。(表9)

表9 鼻汁分泌液中の好酸球検索成績

上市中央小学校 N=52	$\left. \begin{array}{l} +2 \\ +8 \\ \pm 5 \\ -37 \end{array} \right\} \begin{array}{l} 19.2\% \\ 80.8\% \end{array}$
その他の小学校 N=25	$\left. \begin{array}{l} +0 \\ +3 \\ \pm 0 \\ -22 \end{array} \right\} \begin{array}{l} 12.0\% \\ 88.0\% \end{array}$
計	$\left. \begin{array}{l} +2 \\ +11 \\ \pm 5 \\ -59 \end{array} \right\} \begin{array}{l} 16.9\% \\ 83.1\% \end{array}$

ま と め

農山村，ことにへき地の環境の変化は著しく，今やへき地の存在も解消しつつあることは衆知の事実である。従って，過去において医療の確保に恵まれなかった地域も市街地との隔差が縮りつつあり，一方疾病構造も昔日の感がない。

過去13年間，私どもの検診成績でもこのことがうかがわれる。特徴的なことは，昭和44年と昭和56年を比較してみると，慢性副鼻腔炎は10.3%→0.7%，アデノイドは11.6%→0，中耳炎は0.9%→0，難聴は6.9%→0.7%とその減少は極めて著しい。試みに昭和56年度の高岡市小学校児童18,024名の耳鼻咽喉科検診の成績と対比してみても，遜色はない。(表10)

表10 検診年度成績と高岡市(昭和56年度)の比較

疾患 年度及び 高岡市	鼻 (含 アレルギー 炎)	慢 性 副 鼻 腔 炎	中 耳 炎	扁 桃 肥 大	扁 桃 炎	ア デ ノ イ ド	難 聴
昭和44年度	11.2	5.6	0.4	8.6	4.7	11.6	6.9
昭和56年度	8.2	0.7	0	4.1	2.4	0	0.7
高岡市学童 昭和56年度	11.5	0.5	0.01	2.3	0.1	0.1	0.4

数字は%

すなわち過去において，耳鼻咽喉科疾患の頻度は，農山村，ことにへき地において高率に存在することが認められていたが，今や，都会地と変わらない状態にある。このことは，へき地農山村の社会構造の変化，とくに衣食住の都会様式への普遍化も無視できないが，私どもの逐年的の検診の成果，さらに保健対策への啓蒙が，此の如き成績をもたらしたものと考えられる。

私どもは，この成果をふまえ，学校保健対策の一環として努力を続けたいと思っている。

なおこの検診に当たり，上市町並びに上市厚生病院長越山健二博士に謝意を表する。

引用文献

- 1) 豊田文一他：へき地学童の耳鼻咽喉科検診成績 (第1報) 富山県農村医学研究会誌，第2巻，昭和46年。
- 2) 高岡市教育委員会：高岡市学校保健統計書 昭和56年。